

■ 本展の開催にあたり、次の方々にご協力いただきました。
深く感謝の意を表します。

安倍 翁
一色 義子
犬養 智子
尾上 清
学習院昭和寮会
木下 是雄
三條 公隆
瀬川 美恵子
東京都公文書館
日本女子大学成瀬記念館
畠中 茂雄
水谷 守男
(敬称略)
そのほか写真などを提供してくださった方々

学習院大学開学50周年記念 学習院大学の50年 第19回史料館特別展	
会期	1999年4月5日(月)～5月29日(土)
編集・発行	学習院大学史料館・大学五十年史編纂室 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 TEL.03-3986-0221
発行年月日	1999年4月
印刷	株式会社シータス



学習院大学開学50周年記念 第19回史料館特別展
「学習院大学の50年」

展示期間 4月5日(月)～5月29日(土) 日曜・祝日閉室

開室時間 平日10:00～16:30 土曜日10:00～11:30
4月18日(日) オール学習院の集い 10:00～16:00 開室
5月15日(土) 開学記念式典当日 10:00～16:30 開室

会 場 史料館展示室・文学部展示室(北2号館1階)

学習院大学略年表



江戸

弘化 4 (1847) 京都御所日御門前に学習院開講
嘉永 2 (1849) 「学習院」の勅額下賜

明治

明治 3 (1870) 京都学習院、終焉
明治10 (1877) 神田錦町に華族の私立学校として学習院開業
明治17 (1884) 宮内省所管の官立学校となる
明治18 (1885) 四谷尾張町に華族女学校創立
明治21 (1888) 学習院は虎ノ門（麹町区三年町）の旧工部大学校に移転
明治22 (1889) 輔仁会発足
明治23 (1890) 学習院は四谷尾張町に移転
明治39 (1906) 華族女学校は学習院に併合されて学習院女学部となる
明治41 (1908) 東京府下高田村（目白）に移転（初等学科と学習院女学部は旧位置）

大正

大正 7 (1918) 学習院女学部は女子学習院となる
大正10 (1921) 桜友会設立総会開催

昭和

昭和22 (1947) 学習院・女子学習院官制廃止
学習院・女子学習院を一体として、財團法人学習院成立、私立学校となる
昭和24 (1949) 新制大学開設、文政学部（政治学科・哲学科・文学科）・理学部（物理学科・化学科）設置、初代大学長に安倍能成就任
昭和25 (1950) 教職課程設置
四大学運動競技大会発足
昭和26 (1951) 財團法人から学校法人学習院に組織変更
昭和27 (1952) 文政学部を廃止し、政経学部（政治学科・経済学科）と文学部（哲学科・文学科）を開設
東洋文化研究所発足
昭和28 (1953) 大学院人文科学研究科・自然科学研究科修士課程設置
昭和32 (1957) 文学部文学科を国文学科・イギリス文学科・ドイツ文学科・フランス文学科に改組
昭和35 (1960) 北1号館（政経学部・文学部棟）・南2号館（理学部棟）・中央教室（ピラミッド校舎）竣工

平成

平成 2 (1990) 大学院経済学研究科の修士課程を博士前期課程に変更し、同研究科に博士後期課程を設置
国際交流センター設置
平成 3 (1991) 文学部国文学科を日本語日本文学科と改称
平成 5 (1993) 東2号館（法學部・経済学部教育研究棟）・西5号館（本部・教室棟）竣工
平成 6 (1994) スポーツ・健康科学センター設置
平成 9 (1997) 外国語教育研究センター設置

学習院大学創立50周年をむかえて

学習院の前身は弘化4年（1847）3月に開講された公家の教育機関で、当初は「学習所」「修学所」とも呼ばれた。嘉永2年（1849）4月に孝明天皇より勅額が下賜され、学習院が正式名称となつたが、幾度かの改組の後、明治3年（1870）7月に廃止された。

現在の学習院の創立は明治10年（1877）10月、華族子女の教育機関として発足した。当初は、華族会館の経営する私立学校であったが、17年に宮内省所轄の官立学校となつた。翌年には華族女学校も設置され、一時学習院に併合されて学習院女学部となるが、大正7年（1918）以降は女子学習院として独立し、学習院・女子学習院の両学習院が戦後まで存続した。

戦後の諸改革の中で、昭和22年（1947）に宮内省から離れて財團法人学習院となり、24年に学習院大学が開設された。

学習院を存続させ、創立以来の伝統を活かすためには、おもいきった改革と、当時のGHQとの困難な交渉を経ねばならなかつた。そうした経緯を経て、新制大学として誕生した学習院大学は、本年開学50周年を迎える。今回の特別展では、写真と列品を通して学習院大学の前史と50年間の歴史を振りかえってみたい。





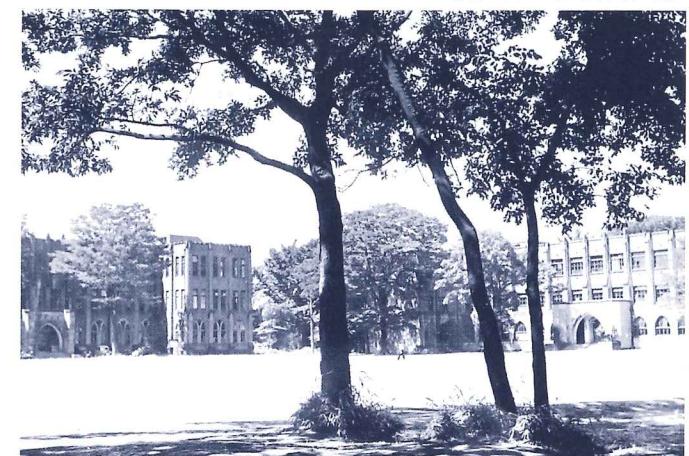
■大学開講式(昭和24年5月11日)
入学式を兼ねた開講式は本館(現西1号館)の
前で挙行された。壇上は安倍院長。

昭和20年(1945)8月の敗戦ののち、学習院・女子学習院は存亡にかかる危機に直面した。日本の民主化を目指すGHQの当初の政策は、両学習院の存続を認めるものではなかった。問題となったのは、両学習院が華族子女の教育を目的とする宮内省管轄の官立学校であるという点であった。

学習院を存続させるためには、根本的な改革が必要であった。そのため同年12月には学制を改正して門戸を広く一般市民の子弟に開放し、さらに21年には宮内省から離れて私立学校となることを決定し、GHQの承認を得るため困難な交渉が続けられた。山梨勝之進院長、続く安倍能成院長を初めとして、卒業生・学生父母・教職員ら関係者の努力が実って、財団法人として生まれ変わったのは、昭和22年(1947)3月31日のことである。

戦後の教育改革により、従来の高等教育の一翼を担っていた旧制高校は廃止となり、高等教育機関は新制大学に一本化されることになった。旧制高校に相当する文科・理科の高等科を置いていた学習院でも、財団設立の準備過程で大学開設の方針が固まった。財政難が予想される中で大学設置を決めたのは、初等教育から高等教育にいたるまでの一貫教育が、学習院の教育目的のなかでも重視されていたためである。

昭和22年(1947)に発足した学習院教育委員会で議論の上、文理



両系統の学部の開設が決まり、23年7月に大学開設の認可申請が行われ、24年2月に文部大臣の認可がおりた。学習院大学が、文政学部と理学部とをもって開設されたのは同年4月であった。初代大学長には安倍能成院長が就任し、5月11日に入学式を兼ねた開講式を挙行して新制大学としての第一歩を踏み出した。5月15日に大学開設祝賀式・祝賀園遊会が開催され、この日が開学記念日となった。

附置研究施設と特殊資料



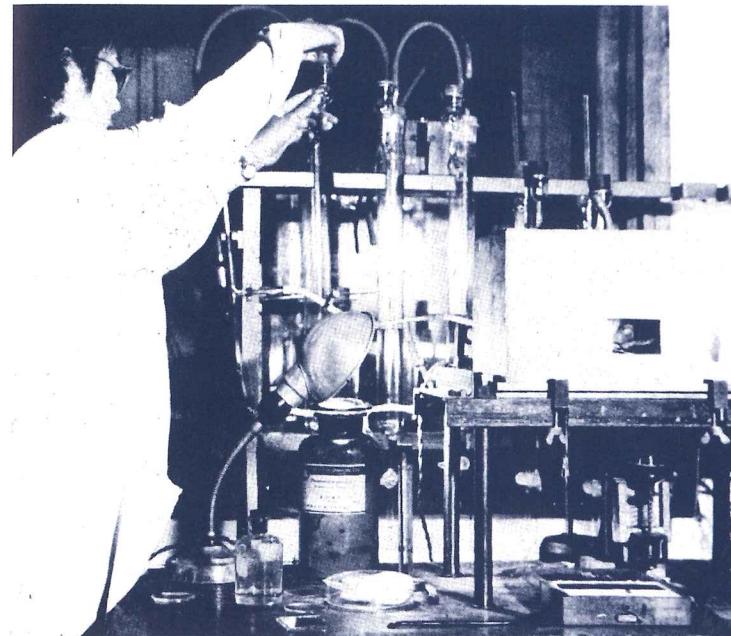
史料館

明治42年に竣工した自白校地初期からの建物で、図書館や研究室としても利用された。

本学は大学院・学部・学科を拡充するとともに附置施設を置き、特徴ある研究と教育環境の進展につとめてきた。現在、大学には6つの附置研究施設(図書館・スポーツ・健康科学センター・計算機センター・外国語教育研究センター・東洋文化研究所・史料館)と附属施設(国際交流センター)が置かれているほか、学部の中にも附置研究施設(経済経営研究所・言語共同研究所・生命分子科学研究所)が置かれている。これらは研究のみならず、生涯学習のための公開講座などを開設しているほか、貴重な史資料や図書の収集にもつとめている。

また、戦後の脆弱な出版状況のなかで、大学には図書が乏しかったが、研究教育設備の強化にともない、蔵書の充実がはかられた。その中には、個人の蔵書を譲り受けたものが少なからずあり、今日これらは各学部・学科の貴重な財産となっている。日本語日本文学科の「三条西家旧蔵本」(三条西公正旧蔵)106件、経済学部の「舞出文庫」(初代政経学部長舞出長五郎旧蔵)約2,000部、法学部の「田中文庫」(本学教授田中耕太郎旧蔵)約2,000部などがある。

学部・学科の発展



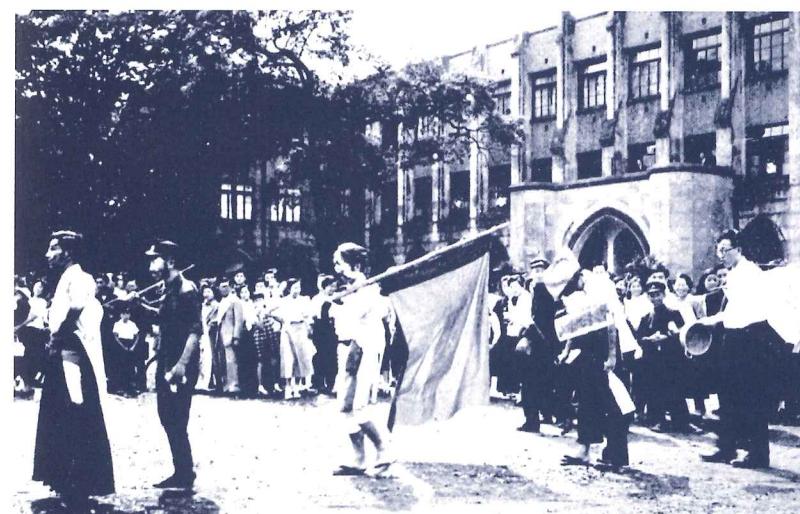
■物理学の実験(昭和27年)

昭和24年(1949)の開学とともに、文政学部と理学部の2学部が置かれた。文政学部は政治学科・哲学科・文学科の3科、理学部は物理学科と化学科の2科からなっていた。当初の定員は、政治学科が200名、哲学科・文学科が各30名、物理学科・化学科各30名であった。文政学部は現在の西1号館、理学部は南1号館にあった。

のちに文政学部は政経学部と文学部に分かれ、さらに政経学部から法学部と経済学部が分立し、昭和39年(1964)には今日の4つの学部、法学部・経済学部・文学部・理学部が顔を揃えるに至った。

学部の発展とあわせて大学院の拡充もすすめられた。昭和28年(1953)に人文科学研究科と自然科学研究科が置かれ、47年に法学研究科、53年に経営学研究科、54年に政治学研究科と経済学研究科とが設置された。各研究科には博士前期・後期課程が設けられ、優秀な研究者を世に送り出している。

2学部・5学科で出発した学習院大学は、今日では4学部・14学科と、6研究科からなる大学院を設け、学生数約9,300人を擁する中規模大学に発展している。



■第1回 大学祭(昭和28年)
大学祭は昭和32年に廃止され、
一時中絶したが、44年から再開された。



■学生生活の理髪室(昭和35年頃)